



よしお まさき
吉尾 昌樹 議員

防災対策

避難道や階段の維持管理は個別の検討が必要

問 避難道や避難階段の維持管理について、補修や改修を行う場合や、新たに避難道を整備してほしいとき、それに掛かる費用はどうなるのか。

南海トラフ地震がそう遠くない日に来るといわれる中で、階段が急すぎたり両側から大きな木が覆っていたり、地震が来たら斜面が崩れそうな所が何箇所もあると思うが、それらへの対応はどうか。

答 徳廣 情報防災課長

避難道や避難階段の維持管理については、破損や倒木などにより避難機能が果たせなくなるような場合には、町にて修繕、伐採等を行なっている。今年度もこれまで3件の倒木処理および転落防止柵の修繕を行なっている。避難道を始め、避難施設の機能管理については、これまで同様に草刈り等を町で、日常の維持管理は各地区で行う。

勾配のきつい階段となつている所もあり、避難道周辺は急峻な法面や大きな木が覆っている所も多数ある。避難機能が果たせなくなる場合には、これまで同様に機能回復

を行うが、予防伐採や法面の予防保護は現時点では困難。
避難整備事業については、一部の路線を除き、今年度で計画路線全ての整備が完了となる。計画外路線となる新たな避難道

の設置については、地区要望があった状況で一定の整備条件が整つていても必要性、緊急性、代替性などから総合的に判断し、他の事業と同様に個別に検討していく必要がある。



避難道の安全確保は大丈夫か

教育問題

いじめや不登校対策は継続的な取り組みが必要

問 最近、毎日のようにいじめや虐待、不登校などの問題がテレビや新聞などで報道されている。

平成12年に児童虐待防止法が施行され、関係法令の改正や整備がされてきて、黒潮町でも黒潮町要保護児童対策地域協議会という子供たちを守る地域のネットワークがあり、それぞれに対応してくれていると思う。

しかし、全国的にはいじめの認知件数は過去最多を更新し、不登校の児童生徒も5年連続で増加し、過去最多の14万人を超えていると報道されていたが、それらについて今後の対策は。

答 畦地 教育長

いじめの積極的な認知を行ない、早期発見をす

るよう早い段階からの確に関わりを持ち、学校だけではなく地域、家庭と連携をして全ての大人が児童生徒の些細な変化に気づくことが重要。

長期欠席、不登校への対策は、児童生徒の生活習慣を見直す、級友との関係を維持、継続させる、関係機関とのつなぎを行う、適切な時間に担任が家庭訪問をし、家庭での学習をサポートする。

また中学では、関係機関との連携を図りながら学校での居場所づくりを努める。

定期的な校内支援委員会を開催、児童生徒の細かな変化を見逃さない、学校、家庭、教育委員会が、これまで以上に連携を取るなどを、学校に指導している。